OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞四元弥寿著 飯倉洋一・柏木隆雄・山本和明・山本はるみ・四元大計視編 『なにわ古書肆　鹿田松雲堂　五代のあゆみ』
Author(s)	村岡, 聖
Citation	語文. 2013, 100-101, p. 158-158
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70923
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

四元弥寿著
飯倉洋一・柏木隆雄・山本和明・山本はるみ・四元大計視編
『なにわ古書肆　鹿田松雲堂　五代のあゆみ』

村岡　聖

本書は、四代松雲堂店主鹿田静七の長女やす（後の四元弥寿）による覚書をもとに、五代に亘る松雲堂歴代店主の足跡を辿ったものである。目次は以下の通りである。

鹿田松雲堂と私／『なにわ古書肆　鹿田松雲堂　五代のあゆみ』由来／鹿田松雲堂　五代のあゆみ／鹿田松雲堂代々年表／資料編（資料編目次詳細は省略）／あとがき

鹿田松雲堂とは、江戸時代後期から昭和二十四年まで、大阪浪速の地で開業された古書肆である。そもそも、江戸時代、大阪船場には老舗の本屋として秋田屋と河内屋の二つの系統があった。初代松雲堂店主鹿田清七は、その河内屋系書肆河内屋新次郎に年少の頃より奉公し、修業した後、天保十四年閏九月十八日、三十一歳のときに本家から暖簾分けをされ、松雲堂を開いた。松雲堂が本屋としての格、また扱う商品にすぐれ、百年の長きに亘ってあまたの人々の利用するところとなったことは本書の「由来」に記された通りである。

本書は、その名の通り鹿田松雲堂五代のあゆみを繙読することを主としているが、それは、この一古書肆の軌跡を知ることが、延いては大阪の文化や出版情勢、歴史を垣間見ることに連関するという意趣を包含しているからに他ならない。一古書肆の来歴に焦点を当てる本書発兌の動機がここにある。

資料編の目次については、紙数の関係上、詳述を割愛したが、本書の五分の四はこの資料編に充てられている。そこには「書籍月報」や書簡、はがき、日記、新聞記事、談話資料など、初代から五代に関する合計二十九の資料が収録され、松雲堂や歴代店主の実像を窺い知ることができる。各資料にははじめに簡単な説明がなされ、漢文資料には訓読が付されている。絵画や写真、地図、軸なども多く、ビジュアルで当時のあり様や資料を確認することも可能である。例を示せば、資料四には「書籍月報」第一号に掲載された二代店主静七の巻頭序文が挙げられている。この序文には「風化ノ由ル所ヲ考ント欲セハ古典廃スヘカラス」との一文があり、本書ではそれを二代静七の「古典籍を尊ぶ重要性を述べる」ものとして紹介している。また、資料八には古井（二代静七のこと）遺稿『思ゐ出の記』が採録され、そこには「松雲堂は弘化二年、篠崎小竹先生額字賜所」など、家の記録が詳述されている。本書の核が、四元弥寿による覚書をもとにした「鹿田松雲堂五代のあゆみ」にあることは間違いないが、それを補強するものとして、さらには松雲堂を一例として大阪文化を鳥瞰するものとして、この資料編が掲載されている。

（和泉書院、二〇一二年十一月、二五〇頁、二，五〇〇円）

（むらおか・しょう　本学大学院博士前期課程）